●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式／特殊型（その他）	
信託期間	2024年３月22日から2034年３月21日まで	
運用方針	auAM Quantitative-ControlレバレッジNASDAQ100マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券を高位に組み入れることにより、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざして運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド	auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券
	auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド	米国の株価指数先物取引、ETF、米国の債券および国内の債券
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	・分配対象額は、経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額を含みます。）および売買益（評価益を含みます。ただし、マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額を除きます。）等の全額とします。 ・原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

auAM Quantitative-Control レバレッジNASDAQ100（愛称：Q レバナス）

運用報告書（全体版）

第９期（決算日 2026年５月22日）
第10期（決算日 2026年８月24日）
（作成対象期間 2026年２月25日～2026年８月24日）

受益者の皆様へ

平素より格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、auAM Quantitative-ControlレバレッジNASDAQ100マザーファンドの受益証券を高位に組み入れることにより、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

auアセットマネジメント株式会社
東京都千代田区西神田三丁目2番1号
ホームページ
https://www.kddi-am.com/
お問い合わせ先 03-5657-7185
（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

■設定以来の運用実績

決算期	基準価額			NASDAQ100指数（円ヘッジベース）		株式先物比率	公社債組入比率	純資産総額
	（分配落）	税引前分配金	期中騰落率	（参考指数）	期中騰落率			
（設定日）	円	円	%			%	%	百万円
2024年３月22日	10,000	－	－	10,000	－	－	－	10
１期（2024年５月22日）	10,220	0	2.2	10,102	1.0	209.0	－	743
２期（2024年８月22日）	10,358	0	1.4	10,582	4.8	233.6	－	1,821
３期（2024年11月22日）	11,097	0	7.1	10,946	3.4	295.8	10.8	2,216
４期（2025年２月25日）	11,793	0	6.3	11,158	1.9	239.9	8.9	2,753
５期（2025年５月22日）	9,650	0	△18.2	10,936	△ 2.0	151.0	10.1	2,973
６期（2025年８月22日）	11,394	0	18.1	11,930	9.1	210.0	8.8	3,416
７期（2025年11月25日）	13,175	0	15.6	12,740	6.8	225.6	7.0	4,303
８期（2026年２月24日）	12,771	0	△ 3.1	12,568	△ 1.3	218.9	13.0	4,588
９期（2026年５月22日）	18,644	0	46.0	14,809	17.8	200.9	8.8	6,767
10期（2026年８月24日）	18,595	0	△ 0.3	14,723	△ 0.6	217.4	7.9	7,599

（注１）設定日の基準価額は、設定時の価額です。また、期中騰落率は、期末の基準価額（税引前分配金含む）を設定日の基準価額で除して算出したものです。
（注２）設定日の純資産は、設定元本を表示しております。
（注３）NASDAQ100指数（円ヘッジベース）は、NASDAQ100指数（円ヘッジベース）の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000としてauアセットマネジメントが計算したものです。
（注４）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
（注５）指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
（注６）株式先物比率は買建比率－売建比率です。
（注７）当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式先物比率」、「公社債組入比率」は、実質組入比率を記載しております。

■当作成期中の基準価額と市況等の推移

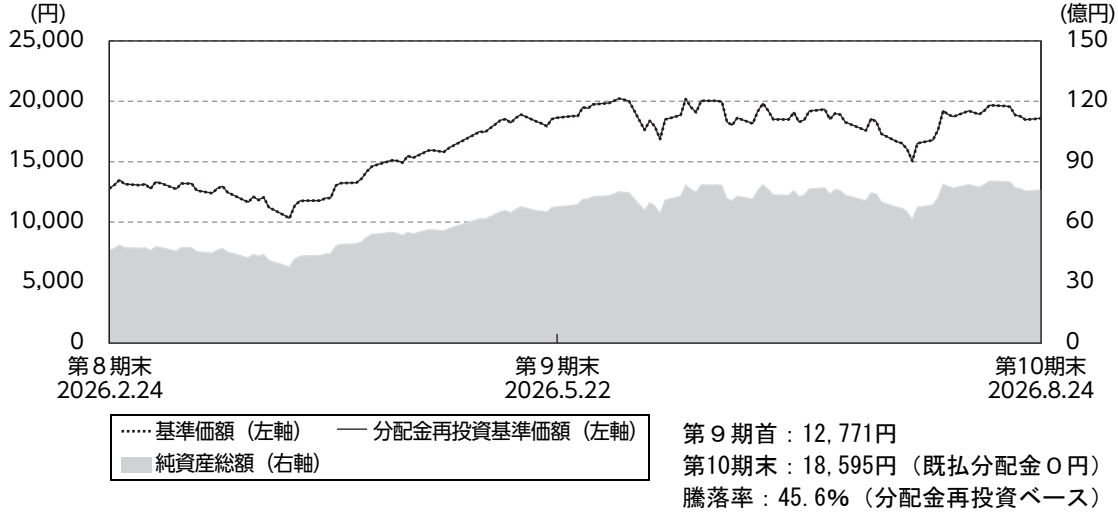
	年　月　日	基準価額		NASDAQ100指数(円ヘッジベース)		株式先物比率	公社債組入比率
			騰落率	(参考指数)	期中騰落率		
		円	%			%	%
第９期	(期　首)2026年２月24日	12,771	－	12,568	－	218.9	13.0
	２月末	13,151	3.0	12,725	1.2	227.9	12.6
	３月末	10,319	△19.2	11,619	△ 7.6	303.6	15.8
	４月末	15,805	23.8	13,759	9.5	214.3	10.7
	(期　末)2026年５月22日	18,644	46.0	14,809	17.8	200.9	8.8
第10期	(期　首)2026年５月22日	18,644	－	14,809	－	200.9	8.8
	５月末	19,746	5.9	15,246	3.0	175.6	8.2
	６月末	19,182	2.9	14,988	1.2	224.3	7.9
	７月末	16,520	△11.4	14,136	△ 4.5	277.6	8.9
	(期　末)2026年８月24日	18,595	△ 0.3	14,723	△ 0.6	217.4	7.9

（注１）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。
（注２）NASDAQ100指数（円ヘッジベース）は、NASDAQ100指数（円ヘッジベース）の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000としてauアセットマネジメントが計算したものです。
（注３）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
（注４）指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
（注５）株式先物比率は買建比率－売建比率です。
（注６）当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式先物比率」、「公社債組入比率」は、実質組入比率を記載しております。

当ファンドは、Nasdaq, Inc.またはその関連会社（以下、Nasdaq, Inc.およびその関連会社を「株式会社」と総称します。）によって、支援、推奨、販売または販売促進されるものではありません。株式会社は、ファンドの合法性もしくは適合性について、または当ファンドに関する記述および開示の正確性もしくは妥当性について認定するものではありません。株式会社は、当ファンドの保有者または公衆一般のいかなる者に対しても、一般的な証券投資または特に当ファンドへの投資についての妥当性や、NASDAQ-100 Index®の一般的な株式市況への追随可能性について、明示的か黙示的かを問わず、何らの表明もしくは保証も行いません。株式会社とauアセットマネジメント株式会社との関係は、Nasdaq®およびNASDAQ-100 Index®の登録商標ならびに株式会社の一定の商号について使用を許諾すること、ならびに、auアセットマネジメント株式会社または当ファンドとは無関係に、ナスダックが決定、構築および算出を行うNASDAQ-100 Index®の使用を許諾することに限られます。ナスダックは、NASDAQ-100 Index®の決定、構築および計算に関し、auアセットマネジメント株式会社または当ファンドの保有者の要望を考慮する義務を負いません。株式会社は、当ファンドの発行に関してその時期、価格もしくはその数量の決定について、または当ファンドを換金する際の算式の決定もしくは計算についての責任を負っておらず、また関与をしていません。株式会社は、NASDAQ-100 Index®とそれに含まれるデータの正確性および中断されない算出を保証しません。株式会社は、NASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用により、auアセットマネジメント株式会社、当ファンドの保有者またはその他いかなる者もしくは組織に生じた結果についても、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行いません。株式会社は、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行わず、かつNASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用に関する、特定の目的または利用のための市場商品性または適合性については、いかなる保証についても明示的に否認します。上記に限らず、いかなる場合においても、株式会社は、いかなる逸失利益または特別、付随的、懲罰的、間接的もしくは派生的損害や損失について、たとえもし当該損害等の可能性につき通知されていたとしても、何らの責任も負いません。Nasdaq®, ［Nasdaq-100 Currency Hedged JPY TR™ Index］は、Nasdaq, Inc.（その関連会社を総称して「Nasdaq」といいます）の登録商標であり、auアセットマネジメント株式会社が使用許諾を受けています。Nasdaqは、auアセットマネジメント株式会社が採用するアクティブ投資プロセス、または商品のマーケティングまたは取引に関して、いかなる関係も責任も負いません。本商品およびアクティブ投資プロセスは、その合法性または適合性についてNasdaqによって通知されていません。本製品は、Nasdaqによって発行、承認、販売、または宣伝されるものではありません。Nasdaqは、製品に関していかなる保証も行わず、責任を負いません。

■運用経過

□基準価額等の推移について



第９期首：12,771円
第10期末：18,595円（既払分配金０円）
騰落率：45.6%（分配金再投資ベース）

（注１）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注２）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などにより課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

□基準価額の主な変動要因

auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券を高位に組み入れることにより、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざした運用を行った結果、基準価額・分配金再投資基準価額は第９期が46.0%の上昇、第10期が0.3%の下落となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

□投資環境について　（2026年２月25日～2026年８月24日）

＜株式市況＞

（第９期：2026年２月25日～2026年５月22日）

期中のNASDAQ100指数は上昇しました。

期初より中東情勢の悪化や原油価格の上昇に伴うインフレ懸念などを背景に、３月末にかけて下落基調となりました。４月には、中東情勢への過度な懸念が後退したことから反発基調で推移しました。その後もAI関連需要への期待などを背景に、半導体関連銘柄を中心に期末にかけて上昇しました。

（第10期：2026年５月23日～2026年８月24日）

期中のNASDAQ100指数は下落しました。

期初は前期からの流れが継続し、上昇基調で推移しました。６月にはAI関連銘柄の決算失望や堅調な雇用統計結果を受けて大きく下落しました。その後は反発する局面もみられましたが、７月後半にはAI・半導体銘柄の先行きの業績不透明感の強まりや、中国のAI・半導体ビジネスの台頭への懸念などを背景に下落基調が続きました。８月に入ると、大手テクノロジー企業の好決算などを受けて反発しました。その後、期末にかけてはレンジ圏での推移が続きました。

□ポートフォリオについて

＜当ファンド＞

auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券を高位に組み入れることにより、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざした運用を行いました。実質組入外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

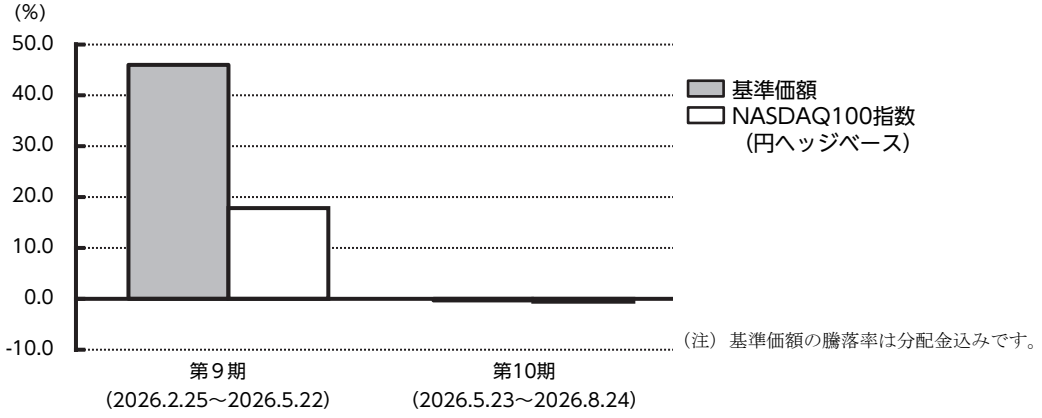
＜auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド＞

株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として信託財産の純資産総額の１～３倍程度になるように調整しました。日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざしました。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

□ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

□分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきました。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

＜分配原資の内訳（１万口当り）＞

項目	第９期	第10期
	2026年２月25日～2026年５月22日	2026年５月23日～2026年８月24日
当期分配金（税引前）（円）	0	0
（対基準価額比率）（%）	(0.00)	(0.00)
当期の収益（円）	－	－
当期の収益以外（円）	－	－
翌期繰越分配対象額（円）	8,643	8,673

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。
（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■今後の運用方針

＜当ファンド＞

auAM Quantitative-ControlレバレッジNASDAQ100マザーファンドの受益証券を高位に組み入れることにより、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざした運用を行います。実質組入外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

＜auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド＞

株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として信託財産の純資産総額の１～３倍程度になるように調整します。日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざします。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■１万口当りの費用の明細

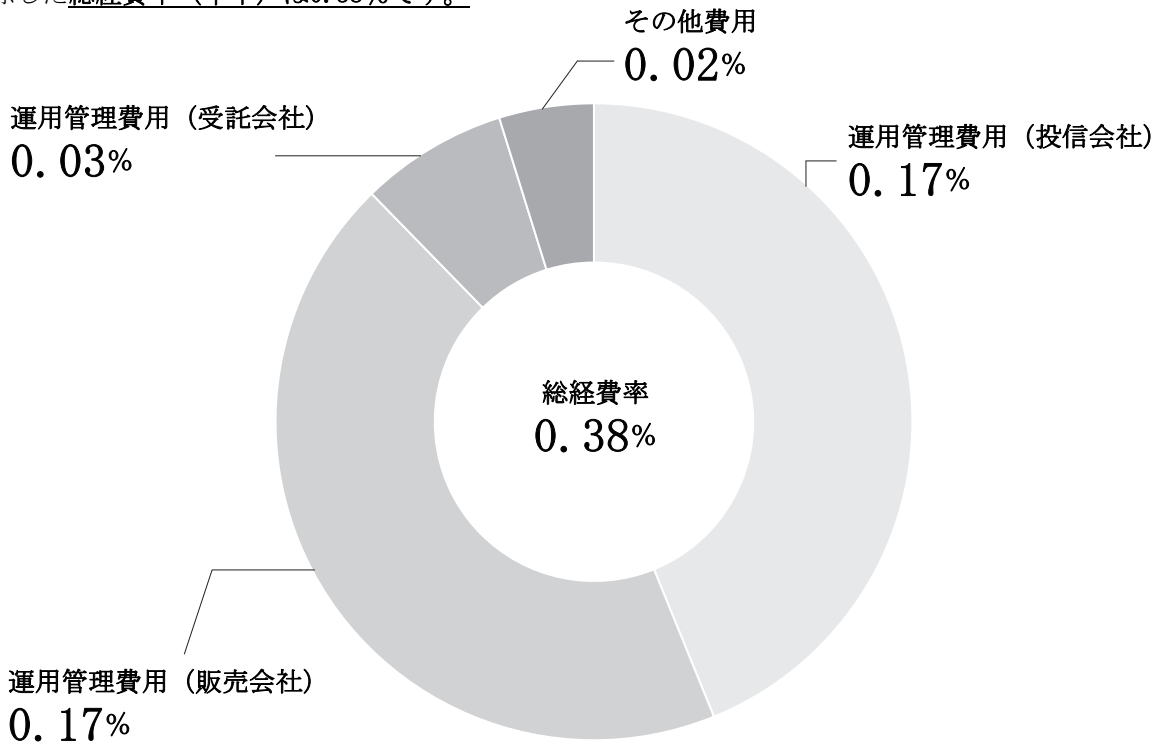
項目	第９期～第10期 (2026．２．25～2026．８．24)		項目の概要
	金額（円）	比率（%）	
運用管理費用 （信託報酬）	**29円**	**0.178%**	運用管理費用（信託報酬）＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 **当作成期中の平均基準価額は16,470円です。**
（投信会社）	（14）	（0.082）	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販売会社）	（14）	（0.082）	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	（2）	（0.014）	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	**5**	**0.032**	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	（5）	（0.032）	
有価証券取引税	**－**	**－**	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	**1**	**0.009**	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	（1）	（0.009）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	（0）	（0.000）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	**36**	**0.218**	

（注１）当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
（注２）各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
（注３）各比率は１万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第３位未満を四捨五入してあります。
（注４）組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。

（参考情報）

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.38%です。**



（注１）１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
（注３）各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

（2026年２月25日から2026年８月24日まで）

	第９期～第10期			
	設　定		解　約	
	口　数	金　額	口　数	金　額
	千口	千円	千口	千円
auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド	524,954	950,000	82,483	127,000

（注）単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2026年２月25日から2026年８月24日まで）

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

（注）利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第１項に規定される利害関係人です。

■組入資産明細表

親投資信託残高

	第８期末	第10期末	
	口　数	口　数	評　価　額
	千口	千口	千円
auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド	3,456,405	3,898,876	7,403,967

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2026年８月24日現在

項　目	第10期末	
	評　価　額	比　率
	千円	%
auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド	7,403,967	96.9
コール・ローン等、その他	238,479	3.1
投資信託財産総額	7,642,446	100.0

（注１）評価額の単位未満は切捨て。
（注２）外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、８月24日における邦貨換算レートは、１アメリカ・ドル＝158.81円です。
（注３）auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンドにおいて、第10期末における外貨建資産（2,951,536千円）の投資信託財産総額（7,532,983千円）に対する比率は、39.2％です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

2026年５月22日現在　2026年８月24日現在

項　　目	第９期末	第10期末
(A) 資　　産	6,822,214,592円	7,642,446,942円
コール・ローン等	260,298,466	238,479,531
auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド(評価額)	6,561,916,126	7,403,967,411
(B) 負　　債	54,622,550	42,613,068
未払解約金	50,015,530	35,543,355
未払信託報酬	4,365,276	6,772,713
その他未払費用	241,744	297,000
(C) 純資産総額(Ａ－Ｂ)	6,767,592,042	7,599,833,874
元　　本	3,629,979,290	4,086,971,525
次期繰越損益金	3,137,612,752	3,512,862,349
(D) 受益権総口数	3,629,979,290口	4,086,971,525口
１万口当り基準価額(Ｃ／Ｄ)	18,644円	18,595円

（注１）当作成期首における元本額は3,593,080,233円、当作成期間（第９期～第10期）中における追加設定元本額は1,127,466,026円、同解約元本額は670,473,791円です。
（注２）第10期末の計算口数当りの純資産額は18,595円です。

■損益の状況

第９期　自2026年２月25日　至2026年５月22日
第10期　自2026年５月23日　至2026年８月24日

項　　目	第９期	第10期
(A) 配当等収益	273,208円	675,936円
受取利息	273,208	675,936
(B) 有価証券売買損益	1,929,599,998	△ 23,078,888
売買益	2,133,490,261	17,784,647
売買損	△ 203,890,263	△ 40,863,535
(C) 信託報酬等	△ 4,607,020	△ 7,069,713
(D) 当期損益金(Ａ＋Ｂ＋Ｃ)	1,925,266,186	△ 29,472,665
(E) 前期繰越損益金	262,080,898	1,842,583,280
(F) 追加信託差損益金	950,265,668	1,699,751,734
(配当等相当額)	(939,696,682)	(1,678,756,973)
(売買損益相当額)	(10,568,986)	(20,994,761)
(G) 合　　計(Ｄ＋Ｅ＋Ｆ)	3,137,612,752	3,512,862,349
次期繰越損益金(Ｇ)	3,137,612,752	3,512,862,349
追加信託差損益金	950,265,668	1,699,751,734
(配当等相当額)	(940,246,039)	(1,681,100,799)
(売買損益相当額)	(10,019,629)	(18,650,935)
分配準備積立金	2,187,347,084	1,863,902,354
繰越損益金	－	△ 50,791,739

（注１）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
（注３）収益分配金の計算過程は下記「分配金の計算過程」をご参照ください。

分配金の計算過程

項　　目	第９期	第10期
(a) 経費控除後の配当等収益	6,728,261円	21,319,074円
(b) 経費控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	1,771,914,534円	0円
(c) 収益調整金	950,265,668円	1,681,100,799円
(d) 分配準備積立金	408,704,289円	1,842,583,280円
(e) 分配対象額 (a＋b＋c＋d)	3,137,612,752円	3,545,003,153円
(f) 分配対象額（１万口当たり）	8,643.61円	8,673.91円
(g) 分配金	0円	0円
(h) 分配金（１万口当たり）	0円	0円

■お知らせ

該当事項はございません。

収益分配金のお知らせ		
１万口当り分配金	第９期	第10期
	０円	０円

・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンド

運用報告書　第２期（決算日　2026年２月24日）

（作成対象期間　2025年２月26日～2026年２月24日）

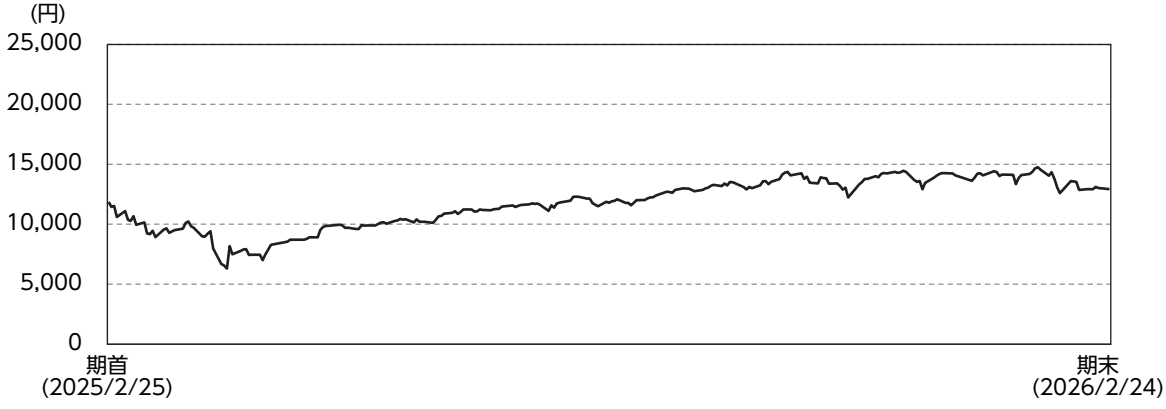
auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りでした。

運用方針	日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざして運用を行います。
主要投資対象	米国の株価指数先物取引、ETF、米国の債券および国内の債券
株式組入制限	無制限

auアセットマネジメント株式会社
東京都千代田区西神田三丁目2番1号
ホームページ
https://www.kddi-am.com/

■当期中の基準価額と市況等の推移



年　月　日	基準価額		NASDAQ100指数（円ヘッジベース）		株式先物比率	公社債組入比率
		騰落率	（参考指数）	期中騰落率		
	円	%			%	%
（期　首）2025年２月25日	11,863	－	11,158	－	242.5	9.0
２月末	10,600	△10.6	10,747	△ 3.7	318.1	10.0
３月末	8,990	△24.2	10,052	△ 9.9	302.0	11.0
４月末	8,488	△28.4	10,151	△ 9.0	152.2	12.3
５月末	9,896	△16.6	11,081	△ 0.7	134.4	10.1
６月末	10,954	△ 7.7	11,663	4.5	181.3	8.9
７月末	11,726	△ 1.2	12,054	8.0	228.9	8.4
８月末	12,090	1.9	12,206	9.4	215.9	8.3
９月末	12,974	9.4	12,651	13.4	196.3	8.0
10月末	14,073	18.6	13,214	18.4	144.8	7.1
11月末	13,781	16.2	12,928	15.9	229.1	6.9
12月末	14,080	18.7	13,040	16.9	234.9	13.0
2026年１月末	14,545	22.6	13,185	18.2	269.7	12.3
（期　末）2026年２月24日	12,920	8.9	12,568	12.6	225.0	13.4

（注１）騰落率は期首比です。
（注２）NASDAQ100指数（円ヘッジベース）は、NASDAQ100指数（円ヘッジベース）の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000としてauアセットマネジメントが計算したものです。
（注３）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
（注４）指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
（注５）株式先物比率は買建比率－売建比率です。

■運用経過

□基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首時：11,863円　期末時：12,920円

騰落率：8.9%

【基準価額の主な変動要因】

日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざした運用を行った結果、基準価額は8.9%の上昇となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

□投資環境について

＜株式市況＞

（第２期：2025年２月26日～2026年２月24日）

NASDAQ100指数は上昇しました。

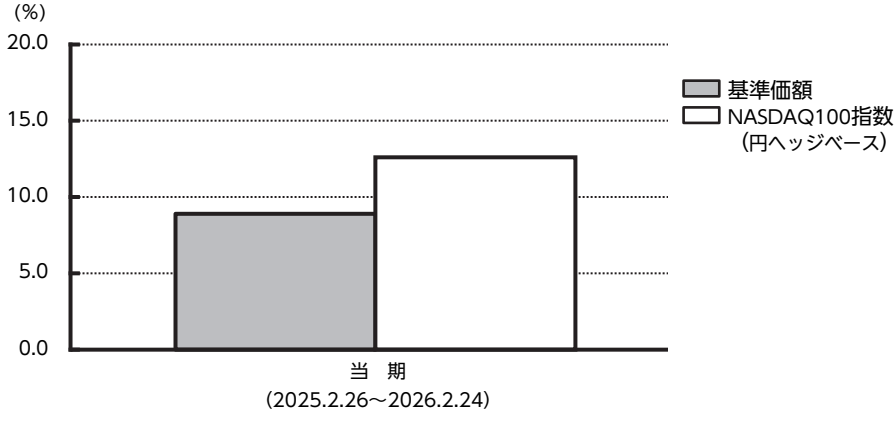
期初はトランプ大統領による関税政策がグローバル経済に大きくマイナスの影響を与えるとの見方が強まり、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、同指数は下落しました。４月には米国の相互関税発表を受けて世界的に急激なリスクオフが進行しましたが、月半ば以降は貿易戦争のエスカレート懸念が後退したことなどから買い戻しの動きが優勢となり同指数は上昇しました。５月には米中両政府が関税を引き下げたことで投資家センチメントが改善し、４月下旬からの反発上昇基調が継続しました。米国による関税リスクへの警戒感が薄れたことや、イラン・イスラエルの停戦合意、Fed高官によるハト派発言などが下支えとなり、堅調な値動きとなりました。７月以降も堅調な経済指標や企業決算、ボラティリティ低下などを背景に同指数は上昇基調で推移しました。その後も世界的なAIブームへの期待感や、米雇用の軟化を背景としたFRBへの金融緩和期待などから底堅く推移しました。11月にはAI関連への巨額投資に対する収益性懸念やバリュエーションの割高感などから、AI関連銘柄を中心に大きく下落する局面もありましたが、月末にかけては持ち直す動きが目立ちました。12月もAI関連企業決算が一部で期待外れの内容となったことで下落する局面もありましたが、その後は年末にかけて反発しました。2026年１月以降も引き続きAI関連へ巨額投資に対する収益性の懸念から上値の重い展開となりました。

□ポートフォリオについて

株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として信託財産の純資産総額の１～３倍程度になるように調整しました。日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざしました。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

□ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



■今後の運用方針

株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として信託財産の純資産総額の１～３倍程度になるように調整します。日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（円ヘッジベース）の値動きの２倍を上回ることをめざします。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■１万口当りの費用の明細

項　　目	当　期
売買委託手数料	8円
（先物・オプション）	(8)
有価証券取引税	－
その他費用	0
（その他）	(0)
合　　計	8

（注１）費用の項目および算出法については前掲の「１万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
（注２）項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

（１）公社債

（2025年２月26日から2026年２月24日まで）

		買　付　額	売　付　額
		千円	千円
国内	国債証券	1,194,855	899,929 (－)

（注１）金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
（注２）（　）内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
（注３）単位未満は切捨て。

（２）先物取引の種類別取引状況

（2025年２月26日から2026年２月24日まで）

種　類　別		買　建		売　建	
		新規買付額	決　済　額	新規売付額	決　済　額
		百万円	百万円	百万円	百万円
外国	株式先物取引	217,371	215,676	555	555

（注１）金額は受渡し代金。
（注２）単位未満は切捨て。

■先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2025年２月26日から2026年２月24日まで)

銘柄別			買建		売建		作成期末評価額		
			新規買付額	決済額	新規売付額	決済額	買建額	売建額	評価損益
			百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
外国	株式	NASDAQ 100 E-MINI(アメリカ)	217,371	215,676	555	555	10,047	－	△81

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

（１）公社債

(2025年２月26日から2026年２月24日まで)

当期			
買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
	千円		千円
1345国庫短期証券	595,674	1296国庫短期証券	299,979
1296国庫短期証券	299,747	1311国庫短期証券	299,977
1311国庫短期証券	299,433	1261国庫短期証券	299,973

(注１) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません)。
(注２) 単位未満は切捨て。

（２）先物取引の銘柄別取引状況

銘柄別		当期末	
		買建額	売建額
		百万円	百万円
外国	NASDAQ 100 E-MINI	10,047	－

(注１) 外貨建の評価額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。
(注２) 評価額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

（１）国内（邦貨建）公社債（種類別）

作成期	当期末						
区分	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					５年以上	２年以上	２年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	600,000	596,685	13.4	－	－	－	13.4
	(600,000)	(596,685)	(13.4)	(－)	(－)	(－)	(13.4)
合計	600,000	596,685	13.4	－	－	－	13.4
	(600,000)	(596,685)	(13.4)	(－)	(－)	(－)	(13.4)

（注１）（ ）内は非上場債で内書き。
（注２）組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
（注３）額面金額、評価額の単位未満は切捨て。
（注４）評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

（２）国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

区分		銘柄	当期末 年利率	額面金額	評価額	償還年月日
			%	千円	千円	
国債証券		1345国庫短期証券	－	600,000	596,685	2026/11/20
合計	銘柄数	1銘柄				
	金額			600,000	596,685	

（注）額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2026年２月24日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	596,685	13.0
コール・ローン等、その他	3,983,002	87.0
投資信託財産総額	4,579,687	100.0

（注１）評価額の単位未満は切捨て。
（注２）外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、２月24日における邦貨換算レートは、１アメリカ・ドル＝154.86円です。
（注３）当期末における外貨建資産（719,171千円）の投資信託財産総額（4,579,687千円）に対する比率は、15.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年２月24日現在

項目	当期末
(A) 資産	9,995,924,528円
コール・ローン等	898,048,311
公社債（評価額）	596,685,086
未収入金	5,451,053,952
差入委託証拠金	3,050,137,179
(B) 負債	5,530,105,681
未払金	5,530,105,681
(C) 純資産総額（Ａ－Ｂ）	4,465,818,847
元本	3,456,405,952
次期繰越損益金	1,009,412,895
(D) 受益権総口数	3,456,405,952口
１万口当たり基準価額（Ｃ／Ｄ）	12,920円

（注１）期首における元本額は2,796,085,541円、当期中における追加設定元本額は1,489,709,137円、同解約元本額は829,388,726円です。

（注２）当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、auAM Quantitative-Controlレバレッジ NASDAQ100 3,456,405,952円です。

（注３）当期末の計算口数当りの純資産額は12,920円です。

■損益の状況

当期　自2025年２月26日　至2026年２月24日

項目	当期
(A) 配当等収益	4,438,585円
受取利息	24,128,975
支払利息	△ 19,690,390
(B) 有価証券売買損益	△ 39,454,746
売買益	227,070,244
売買損	△ 266,524,990
(C) 先物取引等損益	284,199,385
取引益	2,956,855,770
取引損	△2,672,656,385
(D) その他費用	△ 5,940
(E) 当期損益金（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ）	249,177,284
(F) 前期繰越損益金	520,794,347
(G) 解約差損益金	82,150,401
(H) 追加信託差損益金	157,290,863
(I) 合計（Ｅ＋Ｆ＋Ｇ＋Ｈ）	1,009,412,895
次期繰越損益金（Ｉ）	1,009,412,895

（注１）解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

（注２）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■お知らせ

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款の「運用報告書」に関する条文を変更しました。

（変更日　2025年４月１日）